

山口情報芸術センター [YCAM] : 研究開発 / シンポジウム (一般公開)

シンポジウム「TECHTILE という考え方：触感を表現する・触感で表現する」 (YCAM InterLab Camp vol.2 —TECHTILE— 関連イベント)

2011年8月21日(日) 14:00 – 18:00 (関連展示: 13:00-19:30)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA 参加無料 ※要申込

触感を再現する技術と、触感を表現する感性。

YCAMの研究開発プロジェクト、第2回目のテーマは「TECHTILE」。

山口情報芸術センター [YCAM] では、第一線で活躍する研究者を迎え、最新の技術とアート表現への応用について、研究・普及するプロジェクト「YCAM InterLab Camp (ワイカム インターラボ・キャンプ)」を実施しています。こうしたYCAMにおける研究開発の取り組みと、メインテーマである触感を表現する技術「TECHTILE (テクタイル)」についてご紹介することを目的に、一般公開となるシンポジウムを開催いたします。

「YCAM InterLab Camp vol.2」では、研究開発チームYCAM InterLabと研究者、デザイナーが、2年間にわたる共同研究開発を通じ、触感表現の開発環境の構築と、アート、パフォーマンスアート作品への導入について検証します。本シンポジウムでは、タッチングデバイスの普及により、近年注目が高まる「触覚」に関する技術と表現について、4名のパネリストの活動事例を紹介するとともに、技術と表現、テクノロジーとアートの双方の視点による議論を展開します。研究者とアーティストが一堂に会するシンポジウムを通じ、技術が見出す未来への思考を深めます。



TECHTILEの研究開発の事例

シンポジウム「TECHTILE という考え方 ：触感を表現する・触感で表現する」

■ モデレーター

仲谷正史(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科リサーチチャー)

寛康明(慶應義塾大学環境情報学部准教授)

南澤孝太(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科特任講師)

NOSIGNER / 太刀川英輔(デザイナー)

YCAM InterLab メンバー

■ パネリスト

名和晃平(彫刻家)

安藤洋子(ダンサー / ザ・フォーサイス・カンパニー)

渡邊淳司(研究者 / NTTコミュニケーション科学基礎研究所リサーチスペシャリスト)

佐野明人(研究者 / 名古屋工業大学大学院工学研究科教授)

※同会場では、「TECHTILE」を紹介する関連展示を開催します。

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当: 廣田

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 e-mail: information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7 <http://www.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

ワイカム・インターラボ・キャンプ ボリューム2 テクスタイル

YCAM InterLab Camp vol.2 —TECHTILE—**最新の技術と、その応用方法を、思考・実験・実践を通じて探求するプロジェクト**

「YCAM InterLab Camp (ワイカム インターラボ・キャンプ)」は、第一線で活躍する技術者、研究者を迎え、最新の技術やツール、開発環境と、アート表現への応用方法について、レクチャーやワークショップ、成果発表などを通じて研究・普及する取り組みです。2008年度*に続き2回目となる今回は、触感を表現する技術「TECHTILE (テクスタイル)」をメインテーマに、YCAMに付属する研究開発チーム YCAM InterLab と4名の研究者、デザイナーが、2年間にわたる共同研究開発を実施します。触感を表現するための開発環境の構築を目指し、共同研究を継続するほか、「TECHTILE」を普及するシンポジウム、中・上級者向けの集中講座を開催。技術と表現の双方の視点から、触感や触覚についての積極的な議論を展開するとともに、研究成果となる開発環境(TECHTILE ツールキット)を集中講座の教材として活用するなど、YCAMが中心となり、学術的な研究領域の応用と実践をおこないます。



参考写真: YCAM InterLab Camp vol.1 —openFrameworks—

***YCAM InterLab Camp vol.1 —openFrameworks—**

実施期間: 2008年9月25日-28日

メディアアート作品の制作に用いられる開発環境「openFrameworks」をメインテーマに、開発者であるザカリー・リーバーマン、テオドア・ワトソンを講師に迎え、4日間にわたる集中講座を開催。専門的知識をもつ中・上級者を対象とした講座には、国内だけでなく、オーストラリア、韓国などの海外を含め15名の学生や技術者が参加。最新技術に含まれる社会的なコンテキストに注目し、思考、実験、実践による技術習得を試みた。

YCAM InterLab Camp vol.2 ディレクター**YCAM InterLab**

研究開発チーム <http://interlab.ycam.jp/> (8月1日オープン)
山口情報芸術センター [YCAM] に付属するメディアアートを専門とした研究開発チーム。YCAM 委嘱作品となるインスタレーションやパフォーマンスアート作品のための技術開発を専門とし、アーティストや外部エンジニアとの共同開発、作品への技術協力をおこなっている。また、最新技術の芸術表現への応用について研究・実践するほか、文化施設における技術者間の交流と人的ネットワークの構築、研究領域の拡大・普及を目的とし、国内外から研究者を招聘した共同研究などに積極的に取り組んでいる。

寛康明 | Yasuaki Kakehi

研究者 <http://nae-lab.org/~kakehi/>
2007年、東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。科学技術振興機構 さきがけ研究員、慶應義塾大学専任講師を経て、現在は同大学環境情報学部准教授。実世界指向情報環境、インタラクティブメディア、メディアアートを専門に研究するほか、メディアアートユニット「minim++」(近森基氏+久納鏡子氏)とのコラボレートを中心にアート作品も発表している。

仲谷正史 | Masashi Nakatani

触覚研究者
ハーバード大学(米) リサーチアシスタントを経て、2008年、東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。同年、民間企業において触覚評価技術の開発に従事。2009年より慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科リサーチャーを兼任。TECHTILEの活動を通じた、触覚デザインの普及もおこなっている。

南澤孝太 | Kouta Minamizawa

研究者 <http://minamizawa.jp/>
2010年、東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻博士課程修了。慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科特任助教を経て、2011年より同研究科特任講師。ハプティックディスプレイ、バーチャルリアリティ、テレプレゼンテーションを専門に研究をおこない、グローブ型のインタフェース「Ghost Glove」を開発、国内外で発表している。

NOSIGNER / 太刀川英輔 | Eisuke Tachikawa

デザイナー <http://www.nosigner.com/>
「見えない物をつくる職業」という意味をもつデザイン事務所 NOSIGNER 代表。社会に機能するデザインを模索し、空間・プロダクト・グラフィックなど複数の領域で活動。科学・教育・地場産業のデザインプロデュースなど、社会的意義を踏まえたデザイン活動を続けている。被災地での生活を助けるデザインやアイデアを集め、共有するプロジェクト OLIVE PROJECT 代表。

TECHTILE (テクタイル) — 触感を表現する技術

最先端の技術(Technology)と触感の表現(Tactile)の融合

「TECHTILE (テクタイル)」とは、最先端の技術(Technology)と触感の表現(Tactile)との融合を示す造語で、慶應義塾大学の研究者を中心に、2007年より研究/発表されているテーマです。触感の再現だけに留まらず、触感の複製・転写までもを実現する最新の技術について研究するほか、新たな触体験に出会う機会として、アーティストやデザイナーが共同し、定期的に展覧会を開催しています。

「YCAM InterLab Camp vol.2」では、「TECHTILE」における研究成果をさらに飛躍させ、触感を表現し、創作するための開発環境の構築と実践を目指します。こうした試みを紹介する一般公開イベントのシンポジウムでは、彫刻家やダンサー、研究者の4名のパネリストが出演。さらに、同会場では「TECHTILE」を紹介する関連展示も開催します。「触覚」に関わる技術と表現の双方の視点から積極的な議論を展開するほか、「TECHTILE」の可能性、技術の未来についてご紹介します。

YCAM InterLab Camp vol.2 —TECHTILE—について

触覚を認識する技術の開発と普及を見据える

スマートフォンや携帯型ゲーム機、タブレット型コンピューターによって身近になったタッチングデバイス。触覚を認識するインターフェースの需要とともに、触感についての学術的研究への注目が高まっています。研究領域の拡大と同時に、その実用化に際する「本当に使えるインターフェース」の開発を目指し、「YCAM InterLab Camp vol.2 —TECHTILE—」では、デザインやアートの視点を取り入れた、技術と表現が融合する観点から、共同研究をおこないます。

触感による表現、アート作品への応用を試みる

インタラクティブアートや、体験型インスタレーションを中心に、メディアアート作品に導入される多様なインターフェース。「YCAM InterLab Camp vol.2 —TECHTILE—」では、作品に活用するインターフェースとして、さらに、触覚を認識したり、人間の触覚が感受するアート表現として、触覚に関わる研究分野を試行します。触覚の技術を、アート作品やパフォーマンス作品として応用することで、技術と表現の双方における更なる可能性を探求します。

TECHTILEの研究開発の事例



シンポジウム

「TECHTILEという考え方

：触感を表現する・触感で表現する」

※関連展示は13:00-19:30まで開催

14:00-14:45

第一部「TECHTILEとは」

モデレータが、「YCAM InterLab Camp」の活動と研究開発の概要について説明します。

14:45-15:45

第二部「テクノロジーセッション」

触覚に関わる研究に従事する2人の研究者が、その事例について紹介するとともに、「TECHTILE」における新たな可能性について提案します。

パネリスト：渡邊淳司(研究者)、佐野明人(研究者)

15:45-16:00 休憩

16:00-17:00

第三部「アートセッション」

触感を伝える、触覚に関わる表現を試みる二人のアーティストが、自身の活動について、プレゼンテーションを実施。さらに、アーティストの視点から、「TECHTILE」に向けた、未来への展望を提案します。

パネリスト：名和晃平(彫刻家)、安藤洋子(ダンサー)

17:00-18:00

第四部 ディスカッション

「触感を表現する・触感で表現する」

現状のツールキットを紹介するほか、モデレータ、パネリストが触覚に関わる表現、技術についてディスカッションをおこないます

18:00 終了

※第二部と第三部の進行につきまして、開催順が変更となりました。最新版は、上記となりますので、ご確認いただきますようお願い申し上げます。

パネリスト

名和晃平 | Kohei Nawa

彫刻家

<http://www.kohei-nawa.net/>

1975年生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程彫刻専攻修了。京都造形芸術大学准教授。「ものの表皮」への意識から発し、独自の「PixCell = Pixel (画素) + Cell (細胞・器)」という概念を機軸に、感覚や思考のメタファーとしてのマテリアルを多様な表現に展開する。2009年より京都・伏見区にクリエイティブプラットフォームとして「SANDWICH」(<http://sandwich-cpca.net/>)を立ち上げ、自身の作品制作に留まらず、auのデザインプロジェクト「iida」や、ミュージシャンのアルバムアートワークやPV、ステージセットなど、多岐のプロジェクトに携わる。近年の個展に『L_B_S』(メゾンエルメス8階 フォーラム、東京、2009)、『Synthesis』(SCAI THE BATHHOUSE、東京、2010)など。第14回アジア・アート・ビエンナーレ・バンガラデシュ2010最優秀賞。2011年6月より東京都現代美術館で個展を開催中。



安藤洋子 | Yoko Ando

ダンサー

<http://www.yokoando.com/>

1989年、舞踊家の木佐貫邦子に会い、本格的にダンスを始める。振付家、笠井勲、山崎広太などによる多数のダンス公演に参加。1997年よりソロダンス作品を発表する傍ら、野田秀樹の作・演出によるNODA.MAP公演、坂本龍一「LIFE」などに出演。2001年には、ウィリアム・フォーサイスに認められ、フランクフルトバレエ団に入団。2005年以降、ザ・フォーサイス・カンパニーの中心的存在として世界の第一線で活躍。日本においても、自らの企画プロジェクトや外部カンパニーへのゲスト出演、振付けなど精力的に活動している。2011年には、YCAMとの共同開発によるインスタレーション「Reacting Space for Dividual Behavior」を発表(YCAMにて展示中)。

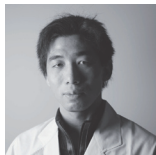


渡邊淳司 | Junji Watanabe

研究者

<http://www.junji.org/>

1976年生まれ。2000年東京大学工学部計数工学科卒業。2005年東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。人間の知覚メカニズム、特に視覚・触覚の基礎研究、感覚を表象するオノマトへの研究をおこなう。また、人間の知覚特性を利用したインタフェース技術の開発と、その展示公開を通じ、人間の感覚と環境・社会との関係性を理論と応用の両面から研究している。2011年よりNTTコミュニケーション科学基礎研究所人間情報研究部リサーチスペシャリスト。



佐野明人 | Akihito Sano

研究者

<http://drei.mech.nitech.ac.jp/~sano/>

触覚研究(触知覚現象、触覚の錯覚)の産業応用に早くから取り組み、自動車メーカーとの共同研究で「触覚コンタクトレンズ」や、プラスチックを柔らかく感じさせる触感デザイン技術「ソフトフィールシボ」を生み出してきた。皮膚に密着して触覚を数倍に増幅させることができる「触覚コンタクトレンズ」は、2004年度のグッドデザイン賞を受賞。また、展覧会「TECHTILE2007」「ナゴヤデザインウィーク2010」の「NDP×Tech of NIT展」への出展など、触覚研究の啓蒙活動にも積極的に取り組んでいる。現在、名古屋工業大学大学院工学研究科機械工学専攻教授。



開催概要

山口情報芸術センター [YCAM]: 研究開発/シンポジウム(一般公開)

シンポジウム「TECHTILEという考え方: 触感を表現する・触感で表現する」

(YCAM InterLab Camp vol.2 —TECHTILE— 関連イベント)

2011年8月21日(日) 14:00-18:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

参加無料 ※要申込[申込受付開始: 6月4日(土)]

対象: 高校生以上

※席に空きがあれば当日参加可

※同会場にて、「TECHTILE」を紹介する関連展示を開催します。

(13:00-19:30)

※「TECHTILE」についての詳細は、<http://www.techtile.org/>をご確認ください。(6月中旬リニューアルオープン)

モデレーター:

仲谷正史(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科リサーチャー)

寛康明(慶應義塾大学環境情報学部准教授)

南澤孝太(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科特任講師)

NOSIGNER/太刀川英輔(デザイナー)

YCAM InterLab

パネリスト:

名和晃平(彫刻家)

安藤洋子(ダンサー/ザ・フォーサイス・カンパニー)

渡邊淳司(研究者/NTTコミュニケーション科学基礎研究所リサーチスペシャリスト)

佐野明人(研究者/名古屋工業大学大学院工学研究科教授)

シンポジウム申込方法:

はがき・FAX・e-mailにて、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、電話番号・e-mail等連絡先とともに、下記までお申し込みください。

山口情報芸術センター TECHTILE シンポジウム係

〒753-0075 山口市中園町7-7 FAX: 083-901-2216 e-mail: workshop11@ycam.jp

主催: 公益財団法人山口市文化振興財団 後援: 山口市、山口市教育委員会

共同開発: YCAM InterLab、慶應義塾大学環境情報学部寛研究室、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科館研究室

企画制作: 山口情報芸術センター [YCAM]